

淀川電が中小向け廉価版

4月の規制強化にらむ

淀川電機製作所（大阪府豊中市、二井慎一郎社長、06・6853・2621）は、金属アーク溶接などの際に発生し粉塵となる粒子状物質「溶接ヒューム」用の集塵機を発売した。4月に溶接ヒュームが国の特定化学物質に指定されることも受け、高い除塵性能や省スペース、低価格といった特徴を備える集塵機として金属・板金加工業などに幅広く売り込む。

塵集効率ヒューム接溶



新機種「SET75e-SV」は粉塵の剥離性を維持しつつ、価格を従来機より約35%引き下げた

椿本チエイン・大原 合わせて会社の目的や 資を行う。

顧客からの要望を踏まえ、二井功太郎常務執行役員は「機能を維持したまま装備を簡素化した。中小企業の溶接現場でも導入しやすい価格設定とした」と話す。

溶接ヒューム用の新集塵機「SET75e-SV」の価格は47万4000円（消費税抜き）。初年度に400台の販売を目指す。淀川電機の従来型集塵機は目詰まり状況をセンサーで感知し、除塵のタイミングを最適に制御する自動システムを確立している。新機種の除塵機能はエアガンで圧縮空気を送り込み、フィルターを振動させて粉塵を効果的に払い落とす手動式にした。粉塵の剥離性を維持したまま、価格を従来機より約35%引き下げた。

設計の見直しで設置スペースは同約30%減とコンパクトになり、移動できるキャスター付きの可搬型にした。独自の火花抑制機能は従来機種と同等で安全面も配慮した。

厚生労働省は労働者の健康対策で溶接ヒュームを特定化学物質に追加した。屋内で金属アーク溶接などをする事業者が対象で4月1日に施行・適用される。こうした状況を踏まえ、淀川電機は作業者周辺に飛散する溶接ヒュームの軽減に寄与する新機種を拡販する。